

私は2月にポーランドに行きました。ポーランド人に日本語を教えている教師の方がYouTubeをご覧になって、直に会って質問したいという事で、『シンドラーのリスト』でお馴染みのシンドラー工場の前で待ち合わせしたんです。色々お話ししていると、ポーランド人は非常に親日だと。その方が日本人だと分かったら、町を歩いててすれ違いざまに「ジエンクイエ/ありがとう」で。「何もしてないんですけど。」「いや、あなた日本人ですから、ありがとう。」

昔ポーランドがロシアに占領された時、たくさんのポーランド人がシベリアに連れて行かれました。その中に幼い子供たちがいて、栄養失調で大変な目に遭ったのですが、その子供たちを日本が引き受けて、守って、戦争が終わってからポーランドに届けた。その歴史があるので、ポーランドは日本に恩がある。それで親日だと。

古い人はそれを知っているのですが、若い人も日本が大好き。日本のアニメ。一にも二にもアニメです。「文学は一流の文化だけど、漫画やアニメは二流の文化だ」と言う人がいますが、そんな事は絶対ない。文学に一流と二流の文学がある。アニメにも一流と二流があると思います。

この一流の、世界に冠たる日本アニメの大御所・第一人者は、やっぱり宮崎駿(みやざき はやお/1941-)。ちょっと前に、宮崎さんの制作現場にカメラが入って、それを見た事があるのですが、彼がずっと描きながら、途切れなく言い続けている言葉が「めんどくさい。めんどくさい。究極のめんどくささだ…。このめんどくささはどこまで続く。めんどくさい…。」「そんなに面倒くさいならやめろや」と思いたくなるけど、よく話を聞くと無理ないですよ。

ベテランのアニメーターが朝から晩まで1日かかって、1週間続けて描いたアニメを動画の映像にしたらずか5秒。だから、朝から夜遅くまで仕事したとしても、1年間描き続けて出来上がる映像時間は5分。普通アニメ映画は2時間です。スタッフは400-500人いますが、2時間の映画を作ろうと思ったら最低でも2年かかる。しかも宮崎さんは妥協がない。スタッフが一生懸命描いても「これ、ダメだ。」得心するまで何回も描き直させる。それでも納得しない場合は「アンタ、ちょっとのいて」と言って自分で描く。そんな事してたら2年で描けない。つまり、めんどくさくしてるのはご自分。

それでも描いていくのですが、一生の間に、こういう映画を何本も撮る事ができないので厳選します。そのために、撮る時に自分自身に3つのハードルを課して、3つ共飛び越える事ができる作品だけ作る。

第1のハードルは、その作品が自分にとってめちゃくちゃ面白い事。作者自身が作っててワクワクしない作品は、他の人も見てくれない。見てくれないかもしれないけど、少なくとも、私はとてもワクワク興奮するという、このワクワク感があるかないか。

第2は儲かるかどうか。400-500人。1本でも興業的に外したら倒れるそうです。だから、料金払ってでも見に行きたいと思ってくれる作品を作らないとダメ。売れないとダメ。少なくとも、自分がワクワクしてる作品でないと一般の人には届かないから、1番目と2番目は繋がっていると言うのです。

第3は作るだけの価値のある作品。自分が死んだ後、作品がこの世界に残る。
作品は置き土産だと考えた時、命を削ってでも残しておくだけの価値があると思える作品。
この3つをクリアしたらやる。

この話をしたのは、最後に彼が「クリエイティブな仕事をしている人は、皆そうですね」と言ったから。
私たちがここで宣べ伝えている創造主/神様は、創造という言葉が表しているようにクリエイティブな方。
私たちの作者。造り主。人が作った神々ではなく、人をお造りになった方。あなたの魂の第一原因者。
なので作者です。

作者が生み出した人間という作品は、まず作者自らがワクワクするようなもので、周りの人々に勇気を与えるような、お金を払ってでも会ってみたいと思うような作品。そして、何よりも価値があるもの。
神様はあなたや私をお造りになる時、ワクワクしながら造ったと信じる事ができたら、それだけでも勇気が出て来ませんか？

造っている時に「しまった！」無い。聖書のどこを見ても、神が「やばい」「やらかした」「失敗」は無い。
神がお造りになった以上、私は失敗作じゃない。
神は私をワクワクしながら造ってくださったし、世界に勇気を伝えるために造ってくださったし、何よりも、造るだけの価値があると見込んで造ってくださったんです。

クリエイターの宮崎さんと神様の違いは「面倒くさい」と言わない事です。
皆さんを造る時に「究極のめんどくさい。造る時もめんどくさいけど、生まれて来たら、もっとめんどくさい」とかないんです。私たちにとって、神様は作者であり、愛してくださる方であり、人生に意味を与える方。

日本語には五十音がありますね。「あ」から始まって最後「ん」。
五十音の一文字一文字にはそんなに意味がない。でも、意味がない文字が組み合わせられたら単語になる。
単語が組み合わせられていくと文章になる。文章が積み重なっていくと小説になる。

私たちは、1人では人生の意味が分からないかもしれないけど、神様の所に行くと、神が紡ぐ壮大な物語の一部になる事ができます。大きな意味の一部を構成する者として造られているのです。
創造主が分からないから「何で生まれて来たんだろう？」人生の目的が分からない。

今日は、創造主なる神様が、私たちを愛して造ってくださっただけでなく、人生に究極の祝福を与えるためにしてくださった事を紹介したいと思います。

ローマ 4:4-5 働く者にとっては、報酬は恵みによるものではなく、当然支払われるべきものと見なされます。しかし、働きがない人であっても、不敬虔な者を義と認める方を信じる人には、その信仰が義と認められます。

ここから3つのポイントでお話しします。

1) 私たちをお造りになった神様の前で、全ての人**は不敬虔な者**。ひと言で言うと罪人(つみびと)。
神を神として認めない。神の存在を無視。神がいたとしても関係ない。
神と断絶して、人生を完結させようという人生観で生きている人。
聖書は、創造主・作者を無視して生きている全ての人を**不敬虔な者・罪人**と言います。

私は活字人間というか、とにかく字が好き。特に、何人が大好きな作家がいます。
山本周五郎（やまもと しゅうごろう/1903-1967）、ご存知ですか？好きな人はメチャクチャ好きですよ。
最近の人は読まない。読んだらいいのになあと思って。文章が長くない。
『武道無門（ぶどうむもん）』、十数回読んだと思いますね。
山本周五郎さんは時代劇物が多くて、人情の機微というか、励ましの物語が多いんです。

彼が小学校の時、国語の宿題で作文があったそうです。彼は地味な少年だったのですが、クラスの人気者でスターみたいなA君と、ひよんな事から1日遊ぶ事になりました。
その時一緒にやった遊びやお喋りが面白くて楽しくて、宝物みたいな思い出になった。
それを綴って提出したら、やっぱり出来が良かったんですね。張り出されたんです。

当然みんなが見に来たんですが、それを見たA君が「俺、お前と遊んだ事ないやん。作るなよ。お前を友達と思った事ないし。これ、嘘つき作文やで。デタラメや」と言った。
周りが皆「だったらめ作文、だったらめ作文、ウソ作文！」とはやし立てて。
「そんな事ない。遊んだやん！」喉元まで出るけど、頭の中真っ白。「ウソや！ウソや！ウソや！」と言われて、言い返す事もできないまま、わんぱく坊主たちが「デタラメ書くな！」と詰め寄って来た。

その時、ようやく担任の先生が現れて「何を騒いでるんだ?!」「先生、山本は嘘ついたんです。こんなデタラメ作文が貼り出されてます。」それを聞いた先生が何と言ったか？「山本、嘘でもこんなに感動的に書けるって、お前凄いよ。将来、小説家になれ。」これは先生なりの喧嘩両成敗。
「ウソや」と言っている側に「嘘やな。お前らの言い分受け入れた。」
嘘つきと言われている山本君には「お前、才能あるから将来小説家。」
両方の言い分を満たしているのだから喧嘩両成敗。完璧と思っている。

彼は数々の賞を取る大作家になったけど、大人になっても、この時の事を忘れる事ができない。
「嘘じゃない。確かにA君と遊んだじゃないか。だけどA君は、地味な私と遊んだのを皆に知られるのは迷惑のように感じた。私は宝物のように感じたが、彼にとっては嫌な事。知られたくない事。結局私を恥じていて、関係があった事を隠したかったんだ。私が憧れていた友達の目には、私は所詮こんな存在でしかなかったのだ。」
後々までヒリヒリして、「人格ある者に対する最大の無礼は、その存在を認めない事だと思う。」

皆さん、そんな経験ありませんか？ 私は似たような経験があります。した事もあります。悪い奴だと、今思います。ごめん。その時の誰か、ごめん。YouTubeの場を借りて、ごめんと思うんですけど。

神様は私たちをただお造りになっただけでなく、私たちを愛し支えて。
今までの人生の中で、クリスチャンになる前に、ものすごく困った事があって、何ものかに向かって「助けて！」とお願いして、自分では特に何かしたわけではないのに、気が付けば上手くいっていたという経験ないですか？ 祈りが聞かれたんじゃないですか？
ユーミンだって言ってますよ。「小さい時には神様がいて、不思議と祈りを聞いてくれた♪」
聖書には書いてないけど。ありますよ。

私の手を離れている。もう何も出来ない。にも拘らず、最終的には、頑張っていた時よりも上手くいった。ないですか？ 私は今、いくつも思い出されるのです。
まだ神様を信じていなかったけど、私の人生を手伝ってくださっていた方がいたんじゃないか？

私と一緒に、共同作業で人生を造ろうとしていた神様の足跡があったんじゃないか？

それに対して、「いや、オレは神と関わった事は1回もないから。」

山本君がA君から言われた時に衝撃的な傷を受けたのは、A君をととても大切な友達だと思っていたから。神様はあなたを愛していますが、愛の対象であるあなたから「神なんか要らない。神は必要ない」と。

親が子供からされる事で一番嫌な事、子供が試験に落ちるとか、成績が悪いとか、左遷されるとかよりもっと辛い事は、親を親として認めない事じゃないですか？

神様にとって一番痛ましい事は、自分が造った作品である人間が作者である神を認めない事です。

神を神として認めない。これが、聖書が言う根本的な罪なんですね。

神を畏れない態度を**不敬虔**と言い、**不敬虔な者**とは全ての人を表す言葉なのです。

神を畏れない・見ている方はいない・私の事を知っている方はいない、という風に生きると、良心は中々作動しないと思いますよ。人間の良心や羞恥心は、ばれたり知られたりした途端、急に「恥ずかしい！」となるけど、どんなに恥ずかしい事をしてかしても、誰にも知られてない段階ではあまり恥ずかしくないというか、普通に振る舞う事が出来るんですよね。

悪を行ったから恥ずかしいんじゃないでなくて、ばれてなかったら恥ずかしくない。

全ての事をご覧になっている神がおられる。この神を消すという事が、人の良心が鈍って行く1つの理由ではないかと思えます。

ところで2013年、イギリスのオックスフォード大学で、オズボーンという准教授が『雇用の未来』という論文を書きました。人工知能やコンピューター技術の発展によって、将来生き残る仕事とそうでない仕事、今あるけど消えて行く仕事と何十年後でも残っている仕事がある。

生き残る仕事は、医者・ナース・保育士と書いてありました。

教会も無くなると。牧師が語ったメッセージを、ディープラーニングでコンピューター/人工知能に学習させたら、へっぽこクリスチャンのメッセージよりも、来たい人の心を満たすので、やがて人工知能教会が出来る！ええっ！どう思いますか？

2011年にアメリカの小学校に入学した子供たちが、大学を卒業して就職する仕事の65%は、現在存在していないそうです。今存在していない仕事に100人中65人が就いて、35人は今ある仕事に就くだろう。今無い仕事って何ですか？今無いから分からへん。例えばユーチューバーという仕事。

言っときますけど僕は違うんで。YouTubeに出してるけど、宣伝出してないので広告収入貰っているワケじゃない。厳密にはユーチューバーではありません。

だけど今から10年前、ユーチューバーっていましたか？ヒカキン、年収18億円ですよ。すごい作品作ってはるけど。今存在せず、未来に出て来る仕事がある。

無くなる仕事は集金人・レジ打ち・メーター計測係・DVDやCDのレンタルショップ…ずらっと。

見たら、段々気が滅入って来る。

無くなる仕事の上位に、スポーツのレフェリーがありました。98%の確率でなくなるそうです。

他の仕事は、現在それに携わっている人たちが反対するので抵抗が考えられるけど審判はそうではない。アメリカのマイナーの1部リーグでは、ストライクかボールかをコンピューターが判定するロボット審判を来季から採用するそうです。これを支持する人は非常に多い。

なぜなら、スポーツ観戦で一番腹立つのは誤審なんですよ。「こっち勝ったやん！」なのに負けにされたり。

昔柔道で篠原信一（しのはら しんいち）、ありましたね。この間の井上尚弥（いのうえ なおや）の試合も。全部 10 カウントじゃなくて、12 カウントじゃないですか？あれは。

違反した方がペナルティを取られず、フェアプレイしている方が違反取られたり、負けた方が勝ったとされ、勝った方が負けになるなら、熱くなっている観戦者は「ナニ?! なんでだ?!」

大相撲でもサッカーでもラグビーでも、もう 1 度今のシーンをビデオでゆっくりにして審判する。

「これは皆が支持するので、人間の審判者はいなくなるだろう。」なぜ皆が支持するかというと、不正確な審判よりも正確な方がいいから。

そう思うのは、人間の本性の中に「黒は黒。白は白。悪は悪。正義は正義であるべきだ。」「間違っただ方にペナルティを課し、フェアな方は評価すべきだ」という、正義感・真実を明らかにしてもらいたい欲求があるからだと思うんです。

スポーツの試合なら、それでも一生が掛かっている人がいるかもしれないけど、私たちの生活の中で濡れ衣着せられたり、身に覚えのない事でひどい目に遭ったり、悪を行いながらのうのうと生きている人が出て来たり。そういうのを見ると「何でこんな事があるのだろう?!」「正義の審判者がいなければならぬ!」という欲求を、誰もが持つんじゃないでしょうか？

人でもそう欲求するとするならば、正義の審判者である神様は罪に対して尚のこと、不敬虔に対して…（*着信音が流れた）生きてたら色々あるんですよね。で、言う事、忘れました…。

不敬虔な者・罪人には、罪に対する断罪がある。

でも 4 節を見ると、それを言おうとしているのではないですね。5 節を見ましょう。

ローマ 4:5 しかし、働きがない人であっても、不敬虔な者を義と認める方を信じる人には、その信仰が義と認められます。

不敬虔な者を義と認めるとは、神様が罪を大目に見るという意味ではない。

罪を罪として、その責任を必ず問いますが、罪を犯した私にではなく、私に代わって罪の罰を引き受けてくださるイエス・キリストにその責任を問うてくださる。

キリストが私の罪の償いを代わりにしてくださったので、それゆえに私は義と認められると言うのです。

ところで 5 節の前に、4 節で不思議な事が書いてあります。

ローマ 4:4 働く者にとっては報酬は恵みによるものではなく、当然支払われるべきものと見なされます。

これは、労働と賃金について書いてあるんです。会社に行って働くと給料貰える。労働に対して賃金が払われる。この支払いは当然の権利です。労働者は、労働力という商品を会社に売りました。

なので、その代金である給料を貰うという事は、恵みによるものではなく、当然支払われるべきものだ。働いたらそれなりの見返りがある事、労働に対して賃金が支払われるのは当然なのです。これを受けて、

ローマ 4:5 しかし、働きがない人であっても、不敬虔な者を義と認める方を信じる人には、その信仰が義と認められます。

義と認められますはギリシア語で「ロギゾマイ」。これは経済用語で、自分が働いたのではないお金が、自分の口座に振り込まれるという意味。労働に対して給料貰うのは当然の事。

ところが、働いてないのに身に覚えのない大金がドンと振り込まれる。これが義と認められるという事。

自分の努力や労働に対する見返りではなく、何もしていないにも拘わらず、ものすごく素晴らしいものがドンと入って来る。皆さんの銀行預金に、ドンとお金が入っていたらどう思いますか？私やったら「罨かな」と。習近平の事をぼろかすに言っているから。罨で、大変な事件に巻き込まれたんじゃないかと。喜びよりも「おかしい。ちょっと待てよ。」次に思うのは振り込み詐欺。というか、振込者が息子やったらあり得へん。「何かの間違いだ！」

自分では何もしてないのに、神が莫大な素晴らしい財産を振り込んでくださった。これが**義と認める**という事。私が汗と血を流さなければならなかったその代価を、キリストが私に代わって血を流し、命を流して死んでくださった。この犠牲のゆえに、私に素晴らしい財産が転がり込んで来た。これが**義と認められる**という事。

実は今日、『放蕩息子』という有名なたとえ話があって、そこからメッセージしようと思っていたのです。朝『**聖書と福音**』という番組を聞いたら、今日は私がメッセンジャーでした。ここの箇所。聞きながら、もう涙が溢れて。「ええ話…」感動のあまり、しばらく言葉が出ない。話している時は「今日も空中分解や…」と落ち込むけど、客観的に聞いたら「ああ、良かったなあ」と慰められる事があって、それで、ここに変えてしまったのです。

特に、最後の『君もそこにいたのか』という聖歌。

『君もそこにいたのか。主が十字架についた時。

君も聞いていたのか。キリストの体に釘を打ち込んで行くその音を。

君も気がついたのか。突然 陽が陰ったのを。

君も墓に行ったのか。死んでくださった方が あの十字架の後で葬られたのを。』

この聖歌を聞いた時に「キリストが私のために死んでくださった。あの尊いキリストが2000年前に本当に死んでくださったんだ。1つしかない命を、私のために、本当に投げ出してくださったんだ。」胸に迫るものがある。この犠牲のゆえに、私に**義**という「神がご覧になっても、非の打ち所がない者としか見えない」という立場が転がり込んで来たのかと思って、嬉しくて仕方なかったんです。

ロサンゼルスにアポロジー・サウンド・オフ・ラインという電話サービスがあります。

アポロジー (Apology) は「謝罪」、サウンド・オフ (Sound off) は「あからさまに言う」という意味がある。謝罪をあからさまに言う電話サービス。謝りたい人に、気が済むまで謝る機会を提供する電話サービス。

「パートナーを裏切って不倫してしまった。言い出せない。何と酷い事をしてしまったのか…。」

「ひどい依存症で家族に随分迷惑をかけてしまった。家族は皆死んで、謝ろうと思っても相手がいらないんだ。」

「交通事故を起こして5人轢いて死なせてしまった。あの人たちの命を取り戻す事は出来ない。酷い事をした私が生き残って、彼らは幸せになる事が出来たはずなのに死んでしまった。」1日300件以上。

「この罪を、どうしたら赦してもらえるのか?!」。謝りたいけど、謝る相手がいなくて、どうにもならなくなった人たちが、毎日毎日300人以上謝る電話サービス。

自分の罪に悶えて、「この罪をどうしたらいいのか」と苦しんでいる人が、ビバリーヒルズやハリウッドがあるロサンゼルスにたくさんいる。その電話サービスでは、一方的に話して終わります。

しかし、聖書の福音は語ります。「主よ、罪人である私を赦してください。」

「子よ、しっかりしなさい。あなたの罪は赦されている。あなたの罪は、この十字架で永久処分された。」

あの十字架こそは、神からの答えです。

不敬虔な者を義と認めるという神からの答えが、あの十字架の中に表されている。

なので、罪を大目に見るので不敬虔な者を義と認めると言うのではなく、キリストの償いのゆえに私たちを義と認めると言うのです。

3) **ローマ 4:5** しかし、働きがない人であっても、不敬虔な者を義と認める方を信じる人には、その信仰が義と認められます。

信じる人には、その信仰が義と認められます。

信じるという言葉ですが、これに対して、ちょっと懐疑的になる方がおられるかも知りません。

「信じる」の反対は「疑う」ですね。信じるのと疑うのは、どちらがいいでしょう？

使い方が正しければ、両方共大切な態度です。疑うべきものを疑い、信じるべきものを信じるというのがいいんです。疑うべきものを信じたり、信じるべきものを疑ったりするのは、両方愚かです。

疑うべきものとは何ですか？ 例えば自然科学の世界では、疑いが無くなった瞬間に、その学問体系の進歩は止まります。「なぜなのか？」という疑問があるので、それを解くために研究が進んで、新たな自然界の成り立ちが分かって来るのです。自然界では、疑問を持つ事はいい事です。

しかし、人格ある者を分かり合っていくためには、疑いからスタートすると、一步も前に進む事が出来ません。人と人が人格を分かり合っていくためには、リスクはあるけど、どうしても信じてみるという事が必要です。そうしないと、信じるに値しない人だったという事すらも分からない。

信じてみて裏切られたら「この人は違った」と分かる。

信じて歩み寄って見ない限り、この人格が、果たして信用に値するかどうかさえも分からない。

聖書で**信じる**はギリシア語で「ピストス」。「信じる/真実/忠実」という意味。

一般的には、どういう人を信じるでしょう？ 私たちはお付き合いしてみて「この人、忠実だなあ/ 真実だなあ」と思ったら「この人、信じてみてもいいかな」と思う。

2か月に1回、天満橋バイブル倶楽部をやっていて、音響を担当しておられるクリスチャンがいます。

私、音楽をやるわけじゃないのに音にはうるさくて。「お前の声がうるさい」って分かっています。

でも、ちゃんと耳に跳ね返って来ないと落ち着かないんですね。「もうちょっと音質を/もうちょっと返りを/もうちょっとモニターが…」言ってるうちに、回を重ねる毎に、音質がぐんぐん上がって来て。

なぜかという、その音響係の人が、最新機材を次々自腹で買ってきてくださっているんですよ。

そら、ようなりますよ。私、その人をすごく信用しているんです。いい音にしようと思って「言われた以上の120%の完成度でやろう！」という取り組みを見ていたら、「この人に仕事を任せていたら大丈夫だ」となりますよね。

私は水曜日からハワイに参ります。「ええなあ。11月にハワイって。」そんなんじゃないですよ。

今回で16回目かな。「ワイキキの事は、はわい、わいに聞き！」という事で。

でも、わい(*私の事)に聞かれても分かりません。ワイキキ、行った事ない。通った事はあるし、1回だけ歩いた事あります。甲子園球児みたいに、砂持って帰ろうかみたいな。ワイキキ、あまり興味ない。

ワイキキ海岸の砂はオーストラリアから運んでいるでしょ？ あそこは、昔海岸じゃなかったんです。

観光客を集めるために人工的に造りました。あの白い砂浜を造るために輸入しているんです。

